◆リレー寄稿
～本格的な生活再建に向けて

消費者信用生協
専務理事　上田　正氏

これまで消費者信用生協（本部:岩手県盛岡市）では、被災者・組合員の皆さまへの生活再建に向けての各種制度の情報提供や、社会福祉協議会等の公的貸付制度で対応できない場合の生活資金の資金需要に対応してきました。また、県の委託を受け、被災遺児・孤児養育者支援事業に取り組み、専門家によるチームを結成し、巡回相談や電話相談事業を行なっています。その他、自殺予防に取り組んでいる秋田県のNPO法人「くもの糸」と共に、中小自営業者の心理的ケアを含めた相談会を釜石市にて定期開催してきました。

被災地では仮設住宅の入居も完了し、本格的な生活再建に向けて取り組みが始まります。住宅の二重ローン問題の解決も大きな課題となることから私的整理ガイドラインを踏まえた債務整理に関する相談体制を強化します。また、雇用・失業に関する相談も増加し、提携しているNPO法人による「これからのくらし仕事支援室」（パーソナル・サポート）への人員派遣を含め体制と連携の強化、支援をしていきます。

宅配を利用し、被災された方が作った商品を供給

11月18日、いわて生協の共同購入セットセンター（岩手県滝沢村）で、被災された方が作る商品に、バーコードに代わる「商品番号シール」を貼るボランティアが行なわれました。

参加したのは、コープ・ボランティアセンターに登録している7人です。

いわて生協では、被災された方が作る商品をイベントで供給するなど支援を行なってきましたが、より多くの人に利用してもらうために、共同購入（宅配）で供給することにしました。ストラップやバンダナで作った帽子など、18種類の商品に対して、計1,397個、82万2,410円分の注文があり、供給の全額が商品制作者に渡されます。

シール貼りに参加した吉田克彦さんは、「自分がやらなくてはいけないこともきちんとしつつ、月に1度のペースでもいいからボランティアを続けていこうと思っています」と話していました。

１つ１つの商品に丁寧にシールを貼っていく。写真の商品は、手作りのふくろうストラップ。

作った人や商品を受け取る人のことを思うと、思わず笑顔がこぼれる。

みんなが集まる広場を作ろう！

球根を植える参加者たち。100人ほどで植えた。

大きい石を拾って、広場を整備。

11月19日、いわて生協46回目のバスボランティア（以下バスボラ）は陸前高田市広田町で作っている「みんなのふれあいひろば」の花壇作りをしました。

この広場は、家にこもるようになった被災者を心配した地主さんが「みんなが集まれる場所を作りたい」と話したことを、以前から広田町を訪れていたバスボラ参加者が聞き及び、作ることになったといいます。

約2カ月かけて、がれきを片付け、パークゴルフやゲートボールができる球場を作り、この日はチューリップなどの球根や花苗などを植えました。

いわて生協のバスボラ参加者76人に加え、たまたま近くでボランティアを行なっていたコープいしかわ主催のバスボラ参加者の金沢大学学生約30人、仮設住宅にお住まいの20人で、花が咲く春を楽しみにしながら、作業を行なっていました。